

ブログ記事へのコメント：「AI自身によるAIのハルシネーション訂正法と人間の思考力向上法」について

拝読しました。AI3兄弟との対話を軸に「AI＝ビッグデータの多数決＝民主主義」という比喻を立て、そこから「AIとの問答は能動的なメディア・リテラシー訓練になる」という結論に至る構成、論の運びとしてとても説得力があります。以下、良い点と、もう少し詰めた方が良さそうな点を分けてお伝えします。

優れている点

- 神武天皇の親神からキリスト論への脱線という具体例が秀逸です。抽象的な「AIは多数決で答える」という主張を、読者が追体験できる対話ログで示しているので説得力が段違いです。
- 「ツッコミによって回答が『多数派の単純な一般論』から『少数の複雑な真実』へ修正された」というくだりは、この記事の核心的な実演になっていて、理論と実例が噛み合っています。
- 従来の受動的メディア・リテラシー（疑って読む）と、能動的リテラシー（問い詰めて構造を剥がす）を対比させた整理は、教育論としても独自性があります。

検討の余地がある点

1. 「多数決＝民主主義」の比喻をもう一段精緻化できそうです

現在のAI3兄弟の応答は、事前学習時のネット上の頻度統計だけで決まっているわけではなく、RLHF（人間評価者によるファインチューニング）や検索・引用機能（Web検索と連携した回答生成）が強く介在しています。つまり「ネット上の生データの多数決」というよりも、「生データの多数決」＋「少数の評価者集団による選別」という二重構造になっている、というのが技術的にはより正確です。

これはむしろ記事の主張を弱めるどころか強めます。「多数決」だけでなく「誰が評価者に選ばれているか」という寡頭制的な要素も加わっているので、「AI＝民主主義」という比喻は、実態としては「衆愚政治」というより「ビッグデータによるポピュリズム＋一部エリート（AI企業の評価チーム）による編集」という、より複雑な政治構造に近いと言えます。ここを一言加えると、AI技術への理解の正確性が増し、記事の説得力も上がるかと思います。

2. Chrome AIの「日本神話 vs

キリスト教」の二項対立も、実はもう一段ハルシネーション気味かもしれません

ご指摘の「イエス・キリストという例外」の見落としに加え、日本神話側についても、「神と人間は血のつながった地続きの存在」という説明も一枚岩の日本神話理解を前提にしすぎている可能性があります（記紀の性質、荒唐無稽な系譜の後世的整備、津田左右吉以来の史料批判の議論など）。この記事の「AIの弱点」のセクションで、キリスト教側だけでなく日本神話側の単純化にも一言触れると、対称性が取れて説得力が増すと思います。

3. 「データの量＝票の数」の喩えは、実は「資本の多い者が発信力を持つ」構造に近いかもしれません

一人一票の民主主義というより、大量にコンテンツを生成できる主体（SEO業者、まとめサイト、bot生成コンテンツなど）が実質的な影響力を持つ点は、むしろ「情報のプルトクラシー（金権政治）」に近いという指摘を加えると、SEO戦略にも取り組まれている先生の視点とも噛み合い、記事に厚みが出ると思います。

4. 構成・可読性について

全体に文章量が多く濃いので、ブログとして公開する際は次の工夫が有効と思われます。

- 冒頭に「今回わかったAIの弱点3つ／使い方3つ」の要約ボックスを置く。
- 「Chrome AI」がどのモデル（Gemini搭載）かを一度明記する。

以上、もしご希望があれば、上記の指摘を踏まえた改訂版の下書き（特に「AIの弱点」セクションへの一文追加案）を作成することもできます。